



# 支部会だより

## 東京道前会

幹事長 明比 章 (70回)

### 東京道前会だより

平成30年度の総会は、5月27日(日)11時より会場として8回目となった格調高い明治記念館において145名出席のもと開催されました。

母校からは佐伯校長先生、本部からは真鍋会長、西条市から武田副市長、近畿道前会から本田副会長、東海道前会から妻鳥副幹事長のご出席をいただきました。

総会は、東京道前会山内会長の開会の挨拶に始まり、来賓として佐伯校長先生と真鍋道前会長にご挨拶をいただきました。続いて明比幹事長から収支決算・活動報告、事業計画・予算案などの上程や、得永会計監事から監査報告などがあり、賛成多数で承認されました。さらに新任役員の紹介がありました。

懇親会は例年のように年の差が70歳ほど開いた大先輩の國田さん(44回)と、今年母校を卒業した最年少118回の方々の乾杯の音頭で賑やかに始まりました。

今回のアトラクションは東京音大卒業後、23歳で日本イタリア協会が主催するイタリア声楽コンクールで優勝され、イタリア留学を経た後、日本とイタリアで数々のオペラに出演されている後田翔平さん(109回)にお願いしました。客席後方から突然歌いながら登場された度肝を抜かれましたが、張りのあるテノールで数曲披露され、会場の皆様は隣の人との歓談も忘れて聞

き入っております。

後半は恒例のお楽しみ抽選会が行われ、就任したばかりの榎谷副事務局長の手際の良い進行により、次々と豪華賞品が当選者に手渡されていきました。

最後は校歌斉唱に始まり、秋山さんと十亀さんの応援団コンビによるリードのもと、応援歌を元氣よく歌って会は最高潮に達しました。締めくくりにして近藤副会長の閉会の辞で盛会のうち滞りなく幕を閉じました。

その他の活動として、6月、母校からの依頼により修学旅行生の会社訪問を今年も実施しました。生徒のキャリア教育充実に尽力したことにより道前会が文部科学大臣から表彰を受けましたが、東京道前会もその一助になっ



## 東海道前会

副会長 森山桂一 (60回)

### 東海道前会活動報告

ているのではないかと思われまます。9月は、母校文化祭へ参加し本会のPRコーナーへ集まってくれた生徒の生活相談に乗りました。10月、年1回のゴルフコンペで親睦を深めました。1月には新年会を日比谷パレスで開催し、50名ほどが参加しました。4月には本会会報誌を発行します。このように東京道前会は今後も活発に活動して参ります。

1、平成30年度東海道前会総会は6月3日(日)13時よりキャッスルプラザホテルで開催されました。来賓として母校から佐伯校長先生、本部から真鍋会長、東京道前会から近藤副会長、漫画家のつだゆみ様のご臨席を賜り、会員21名と合わせて計25名で総会が行われました。

山路会長の挨拶に始まり佐伯校長から書道部の活躍や野球部など部活動の状況、人材育成のための海外研修等の話をしていたいただき会員は西条高校の現状をよく知ることができました。真鍋会長、近藤副会長からも同窓会活動に関する有益な祝辞をいただきました。

総会は森山副会長から事業報告、伊藤会計幹事から会計報告があり、審議事項として事業計画、役員人事案が上程されて承認されました。役員の異動としては副会長の渡部宏氏(51回)と松本順子氏(白40回)が高齢のため退任し新たに長野達夫氏(58回)と矢野範子氏(62回)が



副会長に選任されました。又幹事長の浅木慎一氏(72回)が体調不良のため後藤貞之氏(62回)と交代し伊藤稔氏(71回)が会計幹事に妻鳥勝行氏(71回)が副幹事に選任されました。

今回は総会を盛り上げるために趣向を変えてみることにしました。著名な卒業生に講演してもらおうことにしたのです。講師には女流漫画家で活躍中のつだゆみ先生に来ていただきました。先生は十河元国鉄総裁やNHK大河ドラマのモデルにした幅広い作品で人気の漫画家ですが今回「マンガ十河信二伝」制作のエピソードと題して十河さんの人となりや政界での活躍などその卓越した人物像を楽しく語っていただきました。会場で作本の本の即売会が行われ購入者は本にサインしてもらい本は完売となりました。

懇親会は西条祭りの動画をバツ

とうしょうはん  
西条の守護神  
しょう運の神  
**西条神社**  
(67回)

愛媛県西条市大町1159  
TEL 0897-56-8802 FAX 0897-56-8898  
携帯 090-5273-1982

美・心の資産  
**かわにし**  
代表 塩出 洽 (64回)

画廊/愛媛県西条市大町1639-2 (駅前中通り)  
〒793-0030 tel&fax 0897-55-5768  
http://www.g-kawanishi.com/

kawanishi 豊かな生活環境を創造  
株式会社かわにし

塩出 正照 (61回)

〒793-0030 愛媛県西条市大町1681番地  
TEL 0897-56-2912 FAX 0897-56-3141  
E-mail room@kawanishis.co.jp

クに歓談が進み福引も行われ例年になく盛り上がりアツと言う間に時間が過ぎて校歌斉唱でお開きとなりました。

今年のこの盛り上がりが次回参加者の増加に繋がることを切に願っております。

2、恒例の秋の親睦ゴルフ大会が11月6日、山路会長以下9名が参加して東名古屋カントリークラブで開催されました。出だしは強い風雨にみまわれましたが次第に回復し無事ゴルフを楽しむことができました。終了後のパーティで表彰式を行って親睦を深めました。優勝は和田長生氏(62回)、準優勝は山路会長(50回)、3位は伊藤定彦氏(70回)でした。

以上実施した二つの行事について記述しましたが東海道前会活性化のため会誌を発行するべく準備を進めております。会員の皆様の協力を宜しくお願いたします。

### 近畿道前会

幹事長 圖子洋志 (69回)

#### 近畿道前会総会ご報告

2018年度、近畿道前会総会は、2018年6月30日(土)ホテルグランヴィア大阪にて開催されました。

ご来賓として真鍋和年道前会長、佐伯幸治西条高校校長、玉井敏久西条市長、森夏枝衆議院議員、近藤清史東京道前会副会長、武田仁志西条市副市長、越智三義西条市産業経済部長、菊池薫愛媛県大阪事務所長の8氏がご参加してくださいました。

近畿道前会総会は物故者に対する黙



祷で始まり、近畿道前会会長挨拶、来賓ご紹介、会務報告、会計報告と進み、西条高校校長による西条高校の近況報告、西条市長による西条市の近況などをご報告いただいた。

総会参加者は西条高校の進学校としての躍進ぶり、西条市の目覚ましい発展ぶりをお聞きし目を細めて喜んでいました。また今年度は第115回、第116回卒業の大学生35人の出席をいただき、大変盛大な総会となりました。

今年度の近畿道前会総会は昨年改選された新役員の元に進められ、総会の後は美味しい食事をしながらの懇親会となりました。

懇親会は藤本早苗副会長の司会で進められ、若手大学生による乾杯、特別余興、抽選会、校歌・応援歌へと進んだ。特に特別余興では若手大学生による西条祭りでおられる「伊勢音頭」の披露は特筆ものであった。

これほど素晴らしい歌を大学生が歌ってくれるとは…。参加者全員が目を丸くして聞き入っていた。若い人は本当に素晴らしい。

### 岡山道前会

幹事長 工藤 隆 (71回)

2018年度の近畿道前会総会は沢山の若い会員の参加で、全員が楽しく賑やかに開催出来ました。ありがとうございました。

平成30(2018)年度の岡山道前会の総会は、6月16日(土)11時より「岡山アークホテル」にて開催いたしました。来賓として西条市より第9代道前会会長真鍋和年様と第36代西条高校校長佐伯幸治様がお越しくださいました。幹事長の工藤により以下の内容にて進められました。

- 一 黙 祷 この一年間にお亡くなりになった会員の方々のご冥福をお祈り
  - 二 会長挨拶 佐竹会長
  - 三 来賓挨拶 真鍋道前会会長、佐伯西条高校校長
  - 四 議案審議 平成29年度事業報告・決算報告、平成30年度事業計画案・予算案
  - 五 役員改選 今年度はなし
  - 六 頭 彰 傘寿を迎えられる46回生会員の徳永留吉様
- 議案審議につきましては、特に異論なく原案通り承認されました。また、恒例となりました三浦氏の尽力で収集されました「道前会関連資料」
- ・ 母校関係
  - ・ 卒業生の進路状況、部活動、在校生の活躍、卒業生の活躍
  - ・ 郷土・道前会関係
  - ・ 岡山道前会関係
  - ・ 岡山道前会の活動(本部会報掲載)
  - ・ 会員の活躍
- 県展覧会(書道)、文芸(歌壇・俳壇

#### の新聞掲載

が配布され、出席者に興味深く見ていただきました。

総会に続きまして懇親会に移りましてなごやかな雰囲気のもと、進行は幹事長の工藤が担当いたしました。

佐竹新会長の乾杯の音頭にて開宴し、参加者の方々の楽しい近況報告や恒例のカラオケの十八番披露、更には母校出身の阪神タイガース秋山拓巳投手のマスコミ報道記事・動画の紹介等で大いに盛り上がり、最後に母校校歌の斉唱そして来年の再会を祈念し閉幕となりました。

また3年前の「母校の表敬訪問と西条祭り鑑賞」以来の旅行会を総会・懇親会後の幹事会で決定し、以下のように実施いたしました。

- ・ 日生諸島クルージング
- ・ 国立公園日生諸島めぐり
- ・ 「悠々、浪漫クルーズ」
- ・ 日程：11月24日(土) 日帰り



## 「やすらぎ空間の創造」

# いよせき株式会社

〒793-0053 愛媛県西条市洲之内甲1299  
TEL:0897-55-3720 FAX:0897-56-1266  
E-mail/garden@iyoseki.co.jp HP/http://iyoseki.co.jp/

・行程…鹿久居島でみかん狩り  
 日生諸島巡り  
 昼食会「牡蛎バーベキュー」  
 晩秋の頃とは思えない快晴の穏やかな瀬戸内の風景を眺め、日生名物の牡蛎に舌鼓を打ち、楽しい旅行会となりました。

### 広島道前会

幹事長 氏家 豪 (68回)

平成30年度の広島道前会総会・懇親会は、晴天に恵まれた10月21日にホテルセンチュリー21広島に於いて開催されました。

総会は、大下会長の挨拶に始まり、ご列席頂いた、佐伯幸治西条高等学校校長・真鍋和年道前会会長からご挨拶を頂きました。

西条高校はスーパーサイエンスハイスクールに指定され、5年間、国のサ



ポートが大きく受けられるようになり、国際文理科を新設して3年目で大きな成果を挙げつつある事。校訓の文武両道の通り体育部・文化部共に活躍され、今後も母校の躍進が期待できるとの頼もしく嬉しいご報告がありました。

続いて、幹事長から活動報告と会計から監査報告と進み、全員の賛成で承認されました。引き続き早々に懇親会へ。河端先輩の乾杯の音頭でスタート。

今回は、13名の参加者でしたが、会員の皆様が順次自己紹介を織り交ぜながら和気あいあいの懇親会になり、「長寿健康の秘訣」「趣味のピーナツやニンニクの栽培のご紹介」など。また大先輩方は野球部の甲子園出場を望む声が多く、「自身の生きている間にもう一度甲子園に」一番若手の野球部OB

さんは「広島道前会として皆で応援団を組んで行く事が夢」と、熱い思いを語られていました。佐伯校長先生が、急遽野球部の現状や展望について詳しくご紹介下さる一幕もあり大いに盛り上がりました。

その合間の時間に、広島道前会のホームページをプロジェクト・スクリーンに投影し、ブログに投稿頂いた、故郷西条の写真等を紹介。同時にホームページから抜粋した写真ファイル2冊も回覧し参加者の皆様も大いに関心を寄せられていました。

地元西条は勿論ですが、他県の皆様にも「知らなかった西条や広島が見えて来る」と思いますので、新着情報やコメントを是非ご覧下さい。またコメント欄での会話にもご参加頂ければ嬉しいですよ。

懇親会の最後には全員で恒例の校歌斉唱をし一体感を覚えるひと時でした。佐竹先輩の一本締めで閉会を迎え「来年も是非」という声を頂戴しながら散会しました。

最後になりますが「会の活性化」については、歴史ある支部はもちろん、地方支部においても、幅広い年代層（若い方たちも気軽に）の会への参加者増員が、例年大きな課題の一つとなっているように思われます。

そこで、県在住者が少ない広島支部では、本年度から『近隣の島根県、山口県在住』の同窓会員の皆様にも、この会報紙面を借りて総会参加の呼びかけをさせて頂きます。（本部からもこの試みに快諾を頂きました。）

今年の総会は、10月20日（案）同じ会場にて予定しています。

参加したくても広島在住でない為に情報が得られない方が居るかもしれません。またこちらからは、案内の術もありません。

日時が確定すればホームページにてお知らせ致します。ご都合が宜しければ、ご一報頂き是非ご参加下さい。本年度の総会も、より多くの皆様にお会いできる事を願っております。

### 松山道前会

会報部長 渡部(横井)英子 (76回)

#### 松山道前会活動報告

平成30年は「松山道前会」が「道前会松山支部」より衣替えして、25年目の節目を迎えました。現在、藤本諫男会長（58回）を中心に役員会を年3回開催するなど、松山道前会のさらなる発展に向けて、役員一同日々取り組んでいます。

活動の中心となる平成30年度松山道前会総会は10月27日、東京第一ホテル松山において開催され、中・南予地区合わせて76名の会員の参加がありました。またご多忙の中を来賓として、母



校から佐伯幸治校長（80回）、道前会本部から真鍋和年会長（66回）・寺川和夫事務局長（65回）、今治道前会から西辻勝平会長（52回）にご出席いただきました。

総会は例年通り、安藤敏朗事務局長（68回）の司会進行で開会。参加者全員で校歌を斉唱したあと、物故会員の方々に黙祷を捧げ哀悼の意を表しました。藤本会長による開会挨拶に続き、佐伯校長・真鍋道前会会長より祝辞を頂戴いたしました。来賓紹介のあと議事に移り、松山道前会の活動報告や収支報告がありました。

引き続き行われたアトラクションでは、宮城社大師範の千田京子氏（67回）の社中による琴と藤本会長・森本準氏（67回）による尺八の共演「荒城の月」や、千田社中による「さらし風手事」の

18th “さいじょう” コーラスフェスティバル  入場無料

西条で活動しているコーラグループの発表会

と き 2019年7月14日(日) 開演 13:00 (予定)

と ころ 西条市総合文化会館大ホール

琴の演奏で和楽器の音色を楽しみ、会場は大いに盛り上がりました。

懇親会は徳永周三副会長(69回)の乾杯の音頭で開宴し、親交を深めました。

その後、亀岡マリ子副会長(65回)の閉会挨拶により、総会を終了しました。

前同様に、今回の総会でも49回卒から17回卒までの世代を超えた会員の方々が多数出席されました。

事務局では一人でも多くの会員の方々へ出席していただくために、学生の会員の方には学割を適用しています。

### 道前会西条市役所支部

幹事長 白川 裕三 (78回)

#### 道前会西条市役所支部便り

「平成」の時代も終わるところとなりましたが、この間、地方自治体にも大きな変革が訪れました。

には旧西条市、旧東予市、旧丹原町、旧小松町の2市2町が合併し、新しい西条市が誕生しました。

人口減・高齢社会の到来など西条市をめぐる環境が大きく変わる中、本会員でもある玉井敏久市長のもと、市民主体の行政運営を目指して、職員一丸となって新しい時代に対応したまちづくりに取り組んでいるところです。

支部の活動としては、スタディーツアーの募金を支部会員に積極的に呼びかけ、この素晴らしい事業の一助になるよう協力させていただきました。

さて、例年通り、平成30年2月19日に平成30年度支部総会を、西条市地域創生センターにて開催しました。

後の懇親会には、来賓として道前会本部から年森恭子副会長、曾我部保次副会長、学校から佐伯幸治校長先生のご臨席を賜りました。

今年も、当支部会員366名が団結し、母校、西条高校の発展に寄与させていただければと考えております。



## 随想

### 社郷部「門」発行の思い出

西原俊基 (58回)

西条高校の大手門をくぐったのは、昭和31年春4月、もう遠い昔のことである。

3年生の春、講堂で生徒会大会(総会)があった。

「社郷部(社会郷土研究部)を廃止すべし」という発言があった。私は驚いた、そんな部が存在するのかと。部員が少なくても伝統ある歴史研究の部を廃部させてなるものかと義憤に燃えて拳手、立ち上がった(当時は椅子が無く床の上に着座)、「良識ある皆さん、廃部すべきではない。我が西条は伝統ある城下町である」と呼びかけ満場一致で存続が議決された。

翌日、自ら入部すると郷土史に関心のある生徒が続々と入部し、部員総数45名となった。伊藤道子先輩から関係書類の引き継ぎを受け、部長となった。

週1回の会議、史跡巡り、『西條誌』解読の勉強会、また、西条農業高校、新居浜西高校、川之江高校ら他校の「歴史クラブ」との交流が始まった。特に下島山の遺跡調査(担当…小田登志正(現姓、越智)君)が愛媛新聞の記事となり注目された。

夏休み、塩見淳先生の生家(越智郡吉海町)を訪れ、周辺の遺跡見学後、桜井海岸で泳いだ思い出。秋の文化祭では、展示資料防犯のため徹夜で頑張ったことが脳裏に残る。



部会で機関誌発行が決定された。その名は「門」。表紙は美術部員でもあった河端貞代さんが作成した。多くの部員研究発表、著名な郷土史家、秋山英一先生にも投稿して頂いた。

今、私の手元に機関誌「門」が全巻(9冊)ある。愛媛県立図書館に寄贈の予定である。ちなみに第1号、2号の目次を紹介する。

『門』第1号(昭和32年10月10日発行)

「門」発刊に際して 塩見 淳 顧問  
東予に於ける文化の中心 秋山英一 郷土史家  
周桑郡・吉岡に於ける条里制の研究 小田登志正 1年  
「家風応格法」の発見について 西原俊基 3年

伝説 工藤治兵衛 M子 3年  
西山興隆寺 久保 等 1年  
現代に生きて 渡部和子 2年  
西条城下町 伊東利徳 3年  
伊予路の俳人小林一茶 戸田祥子 1年  
加茂村 川村幸枝 3年  
夢の観光都市に 田中美千代 3年

平家の落武者部族を訪ねて 千葉新作 3年  
一、黒谷道中記 西原俊基 3年  
二、黒谷の開元 三谷弘恵 2年

伊曾乃神社と武丈公園 戸田千枝 3年  
西条市について 浜田重昌 1年  
社郷部所感 戸田祥子 1年  
加茂村の出生の歴史 白石裕子 2年  
高 岸 佐藤美枝子 1年  
あれこれ 千葉新作 3年  
伝説 高田公子 2年  
新田恵美子 2年  
白石裕子 2年

祭 我が祖先 K 2年  
社郷部に臨んで 大沢多美子 3年  
西条藩城下町の図 佐渡千津子 3年  
思い出 雑感 秦 清昭 3年  
最後に 西原俊基 3年

“さいじょう”クラシックフレッシュコンサート  
19th 2019.8.11 [日] 開演 14:00 (予定) 西条市総合文化会館 大ホール 入場無料

『門』第2号（昭和34年3月20日発行）  
 「門」の発行にあたり  
 西条城址  
 おへそ物語  
 共同研究  
 其一 諏訪山一号古墳  
 其二 芳ヶ内横石塚  
 其三 船形土山古墳  
 其の四 西大塚古墳  
 其の五 西条市下島山カメ焼谷遺跡

愛媛県について  
 源兵衛 合田勝江 2年  
 植瑞新開 十亀紀美子 2年  
 古墳調査日記 三崎真生 2年  
 宇和平野の考古調査 石水恭子 2年  
 亥子 小田登志正 2年  
 かちかち山 十亀紀美子 2年  
 昔話 K S 2年  
 雑感 十亀 弘 3年  
 西原俊基 先輩



私は2年後輩の小田登志正君に、夢を託して卒業した。彼は、その後現在まで郷土の歴史、特に遺跡調査を専門として活躍されている。  
 最後に、西条高校「地歴部（地域・

歴史研究部」生徒諸君の活躍を期待してやまない。



お客様の信頼が  
 事業活動の原点  
 村上公明（64回）



30年前のアメリカ研修で損害保険代理店の社会認知度と信用力を教えられました。「日本で理想の保険代理店を作りたい」と努力を重ねるなか、これまで（一社）愛媛県損害保険代理業協会会長を務めるなど業界の発展にも尽力してきました。

私の会社では、保険・サービスの提案力や事故対応、事業の健全性等を総合的に評価する東京海上日動の認定制度で最高ランクの「TOP QUALITY III」を獲得しており、お客様の信頼を事業活動の原点に置いていきます。

また一市民として、地域社会のためには何かできないかと考え、社会貢献活動に積極的に参加しています。民事調停員や少年警察ボランティア協会会長のほか、30年前から保護司として活動し、昨年、公務などに長年従事し功績を残した人に贈られる「瑞宝双光章」を受章させていただきました。表彰の際は、天皇陛下に実際にお会いし、その場でありがたいお言葉をいただき、感無量でありました。まさに人生は「禍

福は糾える縄の如し。」8年前に脊柱管狭窄症になり、その結果、脳梗塞、狭心症で意識不明、幽体離脱を体験し、4年前には自宅全焼というつらい経験もありましたが、人生には良い事だけ、悪い事だけではないという事を痛感しました。今後も地域の安心づくり、従業員が明るく楽しく働ける会社づくり、世のため、人のためにお役に立ちたいと思っています。



真鍋照子（67回）

我が家の近くにユーミンの歌に出てくる「競馬場」（現在は根岸森林公園）があり、今や、梅が満開で、ほんのりと春の色に覆われています。

横浜に暮らし始めて、四十四年になります。横浜生まれの浜っ子より横浜の隅々まで知り尽くしている!?と自負しています。横浜は、異国情緒あふれ、素敵で大好きな町ですが七十才ともなると、西条の心豊かで自然もほどほどにある故郷がなつかしく、西条の良さが、十分に理解出来るようになりました。

一、とうとうと湧き出る「うちぬきの水」。実家に帰って一番初めにすることは、冷たくてサラッとしたお水を一ぱい。体の先まで、しみ通ります。

二、お野菜です。里いもは格別で周ちゃん広場に注文して送ってもらい、友人に配ります。横浜で買うものと全然違いきめ細かくて評判がよいです。又、絹皮なすも送ってもらいますが、横浜で唯一？売っている八百屋さんを見つけ、絹皮なすの食べ方を教えてあげたり、絹皮なす談義で盛りあがりま

三、小えびです。ばら寿司、かき揚げには必須の材料です。海老が入るのに入らないのでは、全然出来上がり違います。何故か似たようなものはあるのですが、味、食感が違うようで、「F鮮魚店」さんから送ってもらっています。

四、小さな洋菓子屋「M」さんです。何年か前にみつけました。お菓子が好きすぎて、パリのお菓子屋さんめぐりをしましたが、パリのお菓子屋さんのカヌレより美味しいなど感激しました。帰省した時には、自転車でカヌレを買いに。大人の雰囲気のあるお洒落なお店です。

五、何ととっても、お堀の中にある西条高校です。在学中は、家から走って三分というところもあり、毎日のようにすべり込みで大手門をくぐっていました。

西条祭りでは、お堀のまわりに並んだ『だんじり』と、水面に映るだんじりが加わり賑やかで華やかな景色になります。

最近、西条を紹介する番組を時々観ることがありますが、もつといい景色があるのにか、残念に思う西条びいきの自分がい



ます。  
 これからもたくさんの方に西条の良さを発信したいと思えます。



# プチ珈琲館

自家焙煎コーヒー販売と  
ワッフル・ピザの店

営業時間 AM8:30-PM9:00  
TEL 0897-55-6767  
愛媛県西条市朝日市258-2

代表 阿蘇道子 (57回)



プロ生活9年を振り返って  
秋山拓巳 (110回)



阪神タイガースの秋山拓巳と申します。2010年に西条高校を卒業し、プロ野球の世界に足を踏み入れて9年が経ちました。これまでの9年を振り返ると、ルーキーイヤーに4勝を挙げたものの、それからは迷い、悩み、辛いシーズンが続きました。

1軍と2軍ではバッターのレベルが全く違いました。2軍ではストライクさえ投げれば抑えることができたのですが、1軍では、ストライクを投げるだけではバッティングピッチャーになってしまう。1軍のバッターを抑えられながら、変えることへの怖さが拭えませんでした。もし変えたことで1軍にすら上がれなくなったらどうしようと考えたこともあります。成績を残せないときには、いろいろなアドバイスを聞

いて、考えて、悩んで、ダメならまた聞いてと、そんな時期が長かったような気がします。本当に試行錯誤の日々で、もう少し球速を上げないと監督に注目してもらえないと思い、球速を上げるためにがむしやりに投げていくときに、きつかけを掴むことができませんでした。

2017年はやっと迷いがなくなり、それなりに自信がついて、積極的に投げられるようになりました。今思うとそのメンタル面の成長が1番大きかったと思います。これまでは打たれることの不安を払拭できないまま投球を続けていましたが、今はそういうことはありません。マウンドで『いま、何をすべきか』が分かっているのです、目の前のことをやるだけです。自分の中で行動の取捨選択ができると、課題に対する考え方もクリアになり、ひとつひとつ物事を片付けることができました。

今後も僕自身がやるべきことはたくさんあります。コントロールの精度をあげて、右バッターをもっと抑えられるように。すべてのボールをしつかりコースに投げ切れるように。変化球はどの球種をどう使っていくべきなのか。ストレートを磨きながら『秋山と言えよこれ!』と言われるような武器を持ってたらと考えています。

西条高校の在校生、卒業生、そして地元西条の皆さま、これからも応援よろしくお願いします!

(Edge 2018年3・4月号 一部引用)



同窓会だより

第54回卒業生(旧南高校)同級会を開催して

福田信一郎 (54回)  
横浜市在住

晴天に恵まれた4月6日(土)午後、同級生17名(うち関東から2名及び関西から1名)が5年ぶりに西条に集まり卒業65周年(及び干支記念も兼ね)記念同級会を開催した。

我々105名が昭和29年西条南校(現西条農業高校)普通科を卒業し、その後学区制の変更で当時の西条北高に編入されて以来道前会にお世話になっている。卒業から65年経った現在物故者及び住所不明者が43名にも上り、連絡が取れる62名(うち男性は20名)に案内状をだし20名から参加の回答を得た。しかしその後の状況変化で3名が辞退し17名(男性5名、女性12名)が参加。年齢83才になると本人が元気で参加の気持ちがあるも連絡の看病などで家を離れられないものだ。

5年前の同級会は19名参加し西条国際ホテルで開催しそのサービスに満足した。今回も同じホテルで実施したいと考え接触したが同ホテルは既に倒産し現在ビジネスホテルで運営中であり同窓会などの会合は受けられないとのことであった。そこで我々年齢のことを考え近場で宴会の実績のある美味休心にお世話になることにした。

当日幹事6名が1時間早い11時に会場である美味休心に集まり、道前会から借用した道前会旗、横幕、式次第を壁に張り付け作業や受付準備を行った。しかし開始前から仲間が集まり始め開始時間には全員が揃った。

会は乾杯の前に物故者への黙祷で始まった。

最初は人によつては65年ぶりの仲間の顔が思い出せず、顔と名前が一致しないねと言っていたが暫くすると65年前の高校生時代のことが段々と思いだされ全員が昔を懐かしみながら当時の雰囲気浸っていた。卒業後しばらくは同級会も度々行われていたが年を取るにつれ間隔が長くなり同じ西条市に住んでいても仕事や家事に忙しい同級生同士が会う頻度が減り高齢化による影響もあり、久しぶりに会うと彼或いは彼女が誰だったか思い出せないことが多くなることはやむを得ない。自己紹介のあと出席出来なかった仲間の近況など伝えられ懐かしい昔を思い出させてくれた楽しい集いであった。

最後に次回は5年後の米寿となる88才の年に再会(開催)しましょうとお互い確認し楽しい会を終えた。店の決まりで前回のようカラオケを楽しむことが出来なかったが、大変楽しい2時間半だった。

全員が満足して会場を後にしたことは関係者として大変嬉しかった。

ただ地元西条から男性(4名在住)の出席者が無かったことは残念であった。

ここに同級会の計画・実行を通じ三浦光



秋川会計事務所

税理士 秋川 史朗 (82回) ・ 税理士 秋川 裕恵 (57回)

事務所 〒799-1353 愛媛県西条市三津屋南11番12 電話 0898-65-5370 FAX 0898-65-5780  
松山事務所 〒790-0005 愛媛県松山市花園町3番地30-1203号 電話 089-913-0578 FAX 089-913-0598

代、堀江タカ子、青野鏡子、池田多美恵、小糸朱躬、神野利明、福田和義さん達仲間のご協力に対してお礼を申し上げます。それでは5年後の88才の再会を期待して！

### 素晴らしきかな 燦燦会

森 寅男 (58回)

平成三十一年の燦燦会例会が、三月三日、小雨で湖面がかすむ黒瀬ダムの湖畔「歓喜庵」で開かれた。

ログハウス風の会場に当初の予想を超える四十五人のメンバーが東は東京・神奈川から西は岡山・広島・福岡から集まりました。燦燦会の命名の由来は「昭和三十三年三月に卒業し明日へ向けて旅立つ、輝く若人が集う会」ですから殆どの人がこの一年で八十才を迎える方々です。

一年ぶりに会って近況報告の話題は健康の事、孫や曾孫の事、終活の事など年相応の定番のようですが、立ち居振舞い、会話のテンポなどは年齢を感じさせない皆さんです。

燦燦会は河野貞夫氏の司会で開会し、物語者に黙祷をささげ、幹事挨拶に続き懇親会の開幕となった。

料理は加茂川の鮎の塩焼、石鏡山系の山の幸、瀬戸内海の魚など盛り沢山に有り。酒もビール、焼酎、ウイスキーと申し分なし。グラスを片手に三々五々集まり、口角泡を飛ばす人、静かに聞き入る人など皆さん再会を心から楽しんでる模様。カラオケからはプロと聞き間違え素晴らしき歌が聞こえる、聞くところではボイストレーニングをしている方もいるとの由。第一線を退き趣味に、ボランティア活動に取り組み方も多い、素晴らしきかな燦燦会。

予定時間は瞬く間に過ぎて、次の予定が村上俊行氏から提案される。

○開催時期 令和二年 五月中旬の週日

(二月はまだ寒い)

○開催場所 黒瀬「歓喜庵」今年と同じ(湖畔の新緑を眺めながら)

特に異議なく全員が賛成、青木清隆氏より閉会挨拶がありフィナーレへ。五十八回生の会は西条高校卒業生の同期会ではたぶん唯一、同期会の歌があります。

作詞は同期で故人となられた塩出真一氏。作曲は同期の歌手佐藤由美子氏のご主人、作曲家立花亮氏にお願いして完成したのが「燦燦会の歌」です。

最後に「燦燦会の歌」「西条高校校歌」を作曲家立花亮氏にピアノ伴奏をお願いして全員で斉唱、プロの作曲家の伴奏になると一段と盛り上がり感動の幕と閉幕。

二次会は二十二人が参加して市内のカラオケスナック二軒を貸し切り、飲み・歌い・食べて楽しく、深夜まで賑わったようです。

翌日四日は滝の宮カントリークラブでゴルフ愛好者によるゴルフコンペが開催されました。

平成最後の燦燦会の行事はすべて終わりましたが、来年の燦燦会にも沢山のメンバーで元気に集まり楽しみましょう。



### 第60回卒業生同窓会

森山 桂一 (60回)

平成30年4月19日第60回卒業生の同窓会が名古屋駅前の名鉄ニューグランドホテルで開催されました。

今までは松山、京都、横浜、西条、大阪などで不定期で開催されてきましたが大阪での同窓会から4年もたつており丁度喜寿の年でもあるので今回東海地区が幹事となり喜寿を記念して名古屋で開催することになりました。

高齢でもあり西条から遠く東海地区在住者も少ないので参加者の数が心配されましたが各地区の世話人のお陰で総勢45人が集まりました。その中にはアメリカ在住の高橋紘一さんが含まれています。この日に合わせて一時帰国し参加してくれたので58年ぶりの再会となりました。旧交を温めることができた感激でした。

夕方、会が始まる前からプロジェクターにDVDで西条祭りのお宮出しの光景が流れリズムカルな太鼓の音が響いて気分が盛り上がる中、「高校三年生」続いて「校歌」が流れて開会宣言がなされました。続いて物語者へ黙祷を行い、甲子園で活躍し毎回同窓会に参加して会を盛り上げてくれた岡部栄一さん、西条高校の校長を務めた渡辺淳さんが最近亡くなられたことも告げられました。

我々60年卒業生には何と言っても高校3年のときに野球部が甲子園で優勝したという輝かしい出来事があります。道前会本部が作成したCD「西条高等学校歌集」の中に宇都宮工校との優勝戦、優勝が決まった瞬間のラジオ放送が収録されています。それを皆で拝聴しました。何回聞いても胸が熱くなる瞬間です。心は一気にあの頃に戻っていききました。

続いて加藤俊さんの代表挨拶、満福寺荒木智昭住職の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。当時流行った「南国土佐」、「俺は待つてるぜ」、「有楽町」、「哀愁列車」などのBGMが流れる中、伊予弁が飛び交いにぎやかな懇親会となりました。

途中高橋護さんの伊勢音頭やM3でユーチューブを使ったカラオケで盛り上がりあつという間に2時間半が過ぎてしまいました。

終了間際には校門前のだんじりからお宮入に画面が変わり、だんじりの川入りがDVDで映し出され、祭りの終わりのあの独特の寂しさを味わいながら校歌斉唱に移り万歳三唱で幕を閉じました。

二次会はホテル近くのカラオケ店で歌を歌い翌日はそれぞれ木曾や郡上などの目的地に散って行きました。こうして名古屋での同窓会は終わりましたが老いていく中、一瞬ですが青春の思い出の中に身を置いて酔いしれることができました。



### 卒業50周年を迎えて

佐伯 賢一 (69回)

平成30年6月1日付本会報第26号に寄稿した「西条高校第69回卒業生コース同窓会」のとおり、平成31年3月1日に開催される母校の卒業式への招待に併せた記念同窓会の開催を企画しました。

### リフォーム・太陽光発電システム

電気工事・設計・施工・保全

代表取締役 今岡正士



株式会社 西電

本社/西条市ひうち6番地11 ☎(0897)56-0355  
 クラレ事業所/西条市朔日市892 ☎(0897)56-0352  
 住宅環境部 ☎0120-303-539 ☎(0897)53-3355

そこで、各クラスに呼びかけを行い、平成29年12月に世話人会を発会し、定期的な打合せ会を重ね、事業推進に取組んできました。その結果、健康との戦いの時期に差し掛かっているせいも、開催日直前になって欠席が続出したものの、卒業式には75人が出席、同窓会は90人出席のもと開催することができました。

先ずは、卒業式。開式を前に佐伯校長と真鍋道前会長から身に余る歓迎のお言葉をいただき、一方私たち出席者からは、卒業50周年が私たちにとって、記念すべき大きな節目であるということ、何か記念になるものをと検討した結果、母校は課外・部活動が活発であること、今年はイギリススタディツアー研修が実施されることを伺い、それらの活動費の一助になればということ、104名から賛助があった寄付金目録を贈呈しました。

いよいよ卒業式開式。私たちと年の差50歳の後輩たちが、大きな夢と希望をもって、羽ばたこうとする勇姿を目の当たりにし、現在、わが国は少子高齢化という大きな課題に直面し、将来が不安視されていますが、何のその、後輩たちは、きつとこれから日本と私たちの未来をしっかりと支えてくれるものと、頼もしさで心強さを強く感じる一方、私たちは、後輩たちが思い切った活躍できる環境づくりに貢献しなければ、という使命感を感じたところでありました。そして、卒業式のクライマックスは、何と云っても送辞と答辞。

送辞と答辞それぞれに込められた感謝の意が織りなすシーンは、3年間の学園生活の凝縮されたドラマを見るようで、感極まった瞬間でもありました。

続いては、私たちが3年間くぐり、そして迎えてくれた大手門前の集合写真撮影。大手門があの日そのままの姿で、ようこそ、お帰りなさいと心から声をかけてくれた気がし、思わず一礼をせずにはいられなかったのは、私だけだったでしょうか。

撮影は、絶好のロケーションの中で行われ、写真館のカメラマン曰く、近年にない最高傑作となる撮影ができたとのことでした。そして、舞台は変わり、50周年記念同窓会会場であるベルフォーレ西条へと移動。

県外からの出席者24名を含む90人の出席のもと無事開催することができました。本会は、卒業50周年記念と題してありますが、長寿のお祝いである数え年70歳の古希記念でもあります。

“人生70古来稀なり”と言われるのであれば、古希を迎える総勢90名の同窓生が、本日元氣な姿で一堂に会することは、希どころか奇蹟であると言っても過言ではないでしょうか。まさに人生100年時代到来を、改めて気づかされたところでありました。

道前会広島支部会長で司会業に従事する、大下美恵子さんの軽やかな司会により開会。そして、国会議員の秘書を務め東京に在住する真鍋宣忠さんの威勢のいい乾杯に続き、15分間はモグモグタイムでおいしい食事を、そして、その後において各テーブルでは、卒業アルバムと突合せをしなから、共に過ごしたあの日にかえって、50年という過ぎし日のセピア色の想い出話にデジタル色の花を咲かせ、あつという間に予約時間が経過しました。

また途中で、同窓生で宝蓮寺の高畑住職率いるジャズバンドによるライブを挟み、



軽やかな音響に会場は大いに盛り上がりました。そして、同窓生で高知県香美市の法光院市長の力強い三本締めと、これから迎える人生100年時代をしっかりと生き、元氣に再会することを約束しあって、お開きとしました。

母校のはからいで同窓会が開催できましたこと、感謝の心でいっぱいです。今回の卒業式と同窓会が、これからの私たちの人生に向け、大きな活力になるものと確信しております。

加えて、卒業式と同窓会の運営に対して、道前会本部事務局のスタッフの皆様には大変ご協力・ご支援いただきましたこと心からお礼申し上げます。

末筆となりましたが、69回生一同、母校西条高校と道前会の益々のご発展を心から祈り申し上げます。

### 三年振りの七一会

山田 順 (71回)

私達71回卒業の同窓会(七一会)は、5年毎に開催しています。

平成27年の七一会開催後、母校卒業50年をあと6年で迎える事になるので、今回3年振りに岡田武雄君のお世話で、平成30年8月11日にベルフォーレ西条で3人の恩師に出席いただき、参加70余名の同窓生と楽しい時間を過ごしました。

私達世話人は、何度も準備会をしてこの日を迎えました。当日は、早くから続々と集まり午後6時からまず、集合写真を撮り、その後、近藤晴雄君の司会で七一会が始まりました。

還暦を迎えた私達は、それぞれ顔と名前がわかる人と「誰だったっけ」と確認しないとわからない人で、会場内が笑いと懐かしむ声で溢れていました。

今回、特に昭和45年(1970年)の春季選抜高校野球大会で甲子園に出場した時の投手の尾崎喜代志君と加納平和君が出席してくれました。

楽しい時間も、すぐに過ぎて校歌等を歌って次の母校50年を迎える2021年3月1日には、多くの友達を誘って集まろうねと約束をして別れました。

私達の七一会も多くの住所不明者がいますので、友人の連絡先のわかる方は、道前会本部に連絡をお願いします。



### 第七七回商業科卒業生 還暦同級会

藤田 保子 (77回)

私達商業科は二クラスあり、自分でもAだったのかBだったのかわからないくらい、ABの垣根をこえ一クラスのようにだったので、毎回合同で同級会を開催しています。

五十歳の時、「時間的に少し余裕はできたが、体力が怪しくなってきた」という声があり、それでは皆元氣なうちということ、五年毎の開催を決めました。

## 祝 卒業50周年・古希記念

人生100年時代。一日一生、真の豊かさを求めて。

第69回生有志一同



今回、還暦を迎えるの記念同級会は、お正月に学年全体の同窓会があったため、九月十五日に時期をずらし、休暇村瀬戸内東予にて行いました。九十二名中三十九名の参加。遠方からの出席者のため、宿泊施設での開催です。

丸山洋先生、佐々木啓智先生、三浦聖先生の出席をいただき、酔いつぶれる前に写真撮っておかねばと、乾杯の前に整理。還暦にはつきものの赤いちゃんちゃんこを、あみだくじにて見事当選した三人に着用してもらいました。いい感じですが、本当は全員着用が理想だったのですが、残念ながら三枚しか準備できず、せめてドレスコードを赤にしておけばよかったと、後で反省です。

その後は、お決まりの近況報告。山あり谷ありの様々なドラマに一喜一憂。際立っては三浦先生。担任が写真家に転身。テレビに個展に写真集出版など大活躍。自分のことのように嬉しい限りです。その先生から、「このように、同窓会に出席できることは、幸せなことですよ。家族や環境に感謝の気持ち。」とお言葉に、まさにそのとおりだと思います。



学生時代のあだなや呼び名で会話が弾み、あつという間に十八歳にタイムスリップ。同級生だからその時が流れます。やがて、ここが痛いあそこが痛いと体や葉の話になり、もう若くはないと現実に戻されます。毎回同級会のお世話をさせていただき思うことは、元気でいて、またみんなと会って美味しい食事とお酒で楽しく話をしたいなと。体力に自信が無くなってきたので、一年毎に開催しないとイケないかな。いやいや、卒業五十年後の同窓会までは元気にやらねば、健康に気をつけ、五年後の再会を楽しみにしています。旅行を兼ねての同級会もいいかもとの声もあがっています。

一緒に計画、準備してくれた仲間感謝。六十代始まったばかりです。どんなドラマが待ち受けているのか、新しい元号「令和」と共に歩んでいきたいと思います。

### 卒業後35年目の再会 第83回卒業生同窓会

八木 聡 (83回)

平成31年1月2日17時よりリーガロイヤルホテル新居浜にて卒業後初めて、恩師5名、全11クラスから131名、合計136名参加で同窓会が開催されました。

受付で参加者が名札を受取ると、校章、高校時の写真、旧姓が入っており、35年前の自分の写真を見て恥ずかしさを見せる仕事も多々あり、開始前から、あちらこちらから名札をまず見せて挨拶するシーンも見られ、所々から談笑が聞こえてきました。

17時に室内が暗くなると、獅子舞が入場、拍手喝采の幕開け、獅子舞は同窓生による女性有志2名での舞いであったことで、さらに驚いたどよめきと再度大きな拍手で盛り上がりました。

司会者から開会が告げられ、幹事挨拶のあと、集合写真撮影では、人数も多いことから、写ることは自己責任で場所を確保するように伝えられ、最前列中央に恩師5名、今治道前会会長西辻様にご協力頂き、今回の参加記念品として製作した「西条



高校83」のタオルを数枚掲げ撮影、真面目な顔、笑っている顔でハイチーズ、無事集合写真を撮り終えました。副幹事による乾杯の発声後は、各テーブルでは再度乾杯の連呼、瞬く間に熱気があふれ、懐かしい人とも会話が弾み、笑顔あふれる場となりました。

アトラクションでは、受付時アンケイトを配布、参加者が選んだ、高校時とは全く変わった人を紹介、各所で「どよめき」が起これ、「街で見かけても同級生とは気が付かない本」、「本当に本人？父親が代理で参加では？」等、司会者も突込みどころを心得ており、更に和やかな雰囲気になりました。次に行われた卒業アルバムへの書き込みから各クラス1名を紹介する企画では、当時牛乳を飲むと書いていたが、今は「アルコールに変わり反省している」また別の人は「先生をお母さんと呼びたい」と書いていており、恩師から許しを得て35年前の夢であった「お母さん」と絶叫し、爆笑を誘いました。

アトラクション終了後、恩師を囲んでクラス写真も撮影、我先に恩師の隣を確保するシーンも多々あり、笑顔あふれる撮影会になりました。会の終盤には、恩師に参加のお礼を伝え、参加された5名の恩師からお言葉を頂いている時間は35年前にタイムスリップした感覚となりました。締めのお言葉を女性世話役の代表者が行ない、さあ「校歌」斉唱となりスクリーンに映し出された校歌は4番まであり、ここでも「どよめき」が発生。「3番までしか知らない、4番の歌詞が読めない」等囁かれています。在学時の生徒会長兼応援団副団長が登壇して「長い一言」の後、現役在校生が使っている応援団の腕章、黄色の鉢巻を付けて「霊峰石鐘仰ぎ見て、西条健児ここにあり、西条魂ここにみよ〜…」とエールを行い、いざ校歌斉唱、全員で歌うことで団結心、一体感が生まれた気がしました。同窓会も終了となり出口ではお土産として、「道前会提供の絵葉書」「西条高校83タオール」「大王製紙勤務者より、エリエールの高級ティッシュ」「西条市パンフレット」等を渡し、次回元気で会うことを約束し別れました。

二次会は同ホテル3階を準備していましたが、開始時間が遅いことから「30名程の参加かな、寂しくなるかな」と思っていました。なんと88名が参加、世話役の幹事、役員は満面の笑みが溢れていました。20時30分に開始の乾杯の音頭により始まり22時30分まで、ほぼ全員が残り、時間いっぱいまで談笑が途切れることはありませんでした。「帰路の時間になり別れを惜しみつつも、「楽しい時間を過ごせた、次回も必ず参加する」との言葉を多くの参加者から頂き大成功であったと確信しました。自分自身、家族、仕事場では味わえない、楽しく、懐かしい時間を過ごすことができました。今回参加が叶わなかった方が次回参加頂けることを期待し、次回2025年1月2日には元気な姿で再び同窓生と会いたいと思いました。

同窓会の成功は道前会事務局のご協力の賜物であり、この場をお借りし御礼申し上げます。



# 四国海苔

代表取締役 烏谷 浩 (76回卒)

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市428番地 TEL 0897-56-3313 FAX 0897-56-7776 ホームページ www.shikoku-nori.co.jp